

HP ALM

ソフトウェア・バージョン: 11.52

新機能

ドキュメント・リリース日: 2013 年 5 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日: 2013 年 5 月 (英語版)



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。

Intel® は米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

Javaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®, Windows® は、Microsoft Corporationの米国登録商標です。

Oracle®は、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Unix® は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

新機能	1
目次	5
はじめに	8
本書の構成	8
第1部: HP ALM 11.52 の新機能	9
第1章: HP ALM の新機能	11
HP Application Lifecycle Management 11.52	11
HP ALM のエディション	12
全般的な更新	12
レポート	13
プロジェクトの計画と追跡	13
管理の更新	13
Business Process Testing	14
ラボ管理	14
ALM ヘルプ	15
第2章: HP ALM Performance Centerの新機能	17
Performance Application Lifecycle(PAL) の更新情報	17
Performance Center ライセンスの更新情報	17
Shunra ネットワーク仮想化の拡張機能	17
My Performance Center のログイン・アクセス	18
VuGen の拡張機能	18
Load Generator - Linux のディストリビューション	19
アナリシスの拡張機能	19
Controller の拡張機能	19
プロトコル	20
第2部: HP ALM 11.50 の新機能	21
第3章: HP ALM の新機能	23

インストール	23
ビジネス・ビュー	24
ラボ管理	24
ユーザに関する更新	25
管理の更新	26
利用可能な機能の変更	28
Business Process Testing	28
API およびデータベースの更新	29
ALM ヘルプ	29
第4章: HP ALM Performance Centerの新機能	31
インストール	31
Performance Application Lifecycle(PAL)	31
仮想化 サービスの統合	31
VuGen の拡張機能	32
プロトコル	32
64ビット・アプリケーションの記録	34
第3部: HP ALM 11.00 の新機能	35
第5章: HP ALM の新機能	37
インストール	37
最適化されたプロジェクト・リポジトリ	38
ALM クライアントの同時実行	38
プロジェクトの計画と追跡(PPT) リリース	38
ビジネス・プロセス・モデルの統合	39
トレーサビリティ・マトリクス	39
テスト設定	39
新しいマニュアル・ランナー HP Sprinter	39
プロジェクト・レポート	40
ユーザに関する更新	40
管理の更新	42
利用可能な機能の変更	45
Business Process Testing	46
REST ベースの API セット	48

API およびデータベースの更新	48
ALM ヘルプ	49
第6章: HP ALM Performance Centerの新機能	51
管理およびラボ管理	51
ユーザの機能	52
スタンドアロン・アプリケーション	55
機能マッピング	56

はじめに

HP Application Lifecycle Management(ALM) によろそ。ALM は、要件定義からデプロイメントまで、コア・アプリケーションのライフサイクル全体を管理する強力なツールです。ALM を使用することにより、最新のアプリケーションを予測可能、繰り返し可能、柔軟な適応が可能な形で提供するのに不可欠な可視性とコラボレーション環境を実現できます。

本書の構成

本書の構成は次のとおりです。

部	説明
「HP ALM 11.52 の新機能」(9 ページ)	ALM 11.52 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。
「HP ALM 11.50 の新機能」(21 ページ)	ALM 11.50 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。
「HP ALM 11.00 の新機能」(35 ページ)	ALM 11.00 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。

ALM 11.50 とのツールの統合を提供するために、非公開統合パックがリリースされました。

第1部: HP ALM 11.52 の新機能

第1章: HP ALM の新機能

この新機能ガイドでは HP Application Lifecycle Management(ALM) 11.52 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。

ALM のメイン・ウィンドウで[ヘルプ]>[ムービー]を選択することで、HP Application Lifecycle Management の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

HP Application Lifecycle Management 11.52	11
HP ALM のエディション	12
一般的な更新	12
レポート	13
プロジェクトの計画と追跡	13
管理の更新	13
Business Process Testing	14
ラボ管理	14
ALM ヘルプ	15

HP Application Lifecycle Management 11.52

HP Application Lifecycle Management(ALM) は、要件からデプロイメントまで、主要アプリケーションのライフサイクルを管理するために IT を強化し、最新アプリケーションの予測可能かつ反復可能で適合性の高い展開のために重要不可欠となる可視性と協調性をアプリケーション・チームに供与します。

ALM は、アプリケーションのライフサイクル管理に関するすべての段階をサポートしています。ALM でアプリケーション管理に関するあらゆる作業を統合することにより、IT をビジネスのニーズに合わせて活用することができます。

ALM には Performance Center の機能も含まれています。このため、Web 経由でアクセスできる一元集中管理された場所から、リソースの割り当てやスケジュール設定など、大規模なパフォーマンス・テスト・プロジェクトに関するあらゆる側面を管理できます。Performance Center の新機能の詳細については、「HP ALM Performance Centerの新機能」(17ページ)を参照してください。

HP ALM のエディション

ALM は、HP ALM Essentials Edition, HP Quality Center Enterprise Edition, HP ALM Performance Center Edition の各種エディションとしても提供されており、それぞれ ALM 機能のサブセットを備えています。


HP ALM エディション	説明
HP ALM	プロセス、アクティビティ、資産を管理および自動化し、アプリケーションの構築、テスト、展開、管理を行うための統合プラットフォームです。これには、要件、テスト、不具合、開発などの各種管理に関するモジュールと、全体的なリリースとプロジェクト計画に関するモジュールが含まれています。HP ALM を使用することで、組織はプロセスの一貫性の確保、ベスト・プラクティスの共有、プロジェクト間での資産の共有を実現できます。
HP ALM Essentials Edition	HP ALM 製品機能のサブセットであり、比較的小規模なチームが短時間で準備し実行できるように設計されています。要件管理、テスト管理、不具合管理のコア機能を利用できます。
HP Quality Center Enterprise Edition	HP ALM と同じ統合プラットフォーム上に配置されます。品質管理に関するコア機能を利用できます。HP Unified Functional Testing, HP Business Process Testing, HP Sprinter との密接な連携により、クオリティ・センター・オブ・エクセレンスの構築をサポートします。
HP ALM Performance Center Edition	パフォーマンス・テスト・スクリプトの管理、スケジューリング、実行、監視に関する完全な機能を備えています。HP ALM と同じプラットフォーム上にあり、HP ALM および HP LoadRunner と直接統合されます。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

全般的な更新

HP Application Lifecycle Management 11.52 には、次のユーザビリティの拡張機能が追加されました。

HP Application Lifecycle Management オプション・ウィンドウ

ALM オプション・ウィンドウに[全画面モードで開く]アイコンが追加されました。このアイコンを選択すると、ALM が全画面モードで開きます。全画面モードにすると、HP ALM を画面全体で操作できるので使いやすくなります。

アドイン、ムービー、新機能

起動ページのデザインが新しくなり、アドイン、ムービー、新機能情報へのアクセスが簡単になりました。新機能情報とムービーは、リリースごとにまとめられています。アドインは、HP アプリケーション、Microsoft アプリケーション、その他ユーティリティごとに分類されています。

レポート

ビジネス・ビュー Excel レポート

新しい Business Views Excel アドインは、ALM レポートの柔軟性を高めます。ALM 担当者は、任意の ALM データのスライスとダイスカット、設定と共有を簡単にできるようになりました。Excel の機能ができる限り活用することで、このツールは使いやすい上に極めて強力です。

いったんインストールすると、Excel Business Views アドインは、MS Excel の追加タブとして表示されるため、ALM を開かずに ALM Business Views に基づいてワークシートを設定できます。その後、豊富な Excel ツールセットを使用して、データを表示および分析できます。この機能では、既存の1つまたは複数のビジネス・ビューとは別に定義された DQL クエリからワークシートを設定できるため、高度な編集機能も提供されます。Excel でデータを構造化および調整したら、レポートをローカルにファイルとして保存するか、ALM アナリシス・ビュー・ツリーに保存して、将来のレポート目的に使用できます。

ビジネス・ビュー Excel レポートは、プロジェクト・カスタマイズで定義および管理するビジネス・ビューに基づいて作成します。ビジネス・ビュー – ALM11.50 で最初に導入された機能で、プロジェクト・データをビジネスの視点から意味のある方法で整理できるレポートのフレームワークを提供します。ビジネス・ビューを作成する場合、1つのエンティティまたは複数のエンティティのどの特定のデータがビジネスの視点から関連するかを定義します。その後、この情報のみがビューに組み込まれます。ALM では、データベース・スキーマを理解しなくてもプロジェクト・データにアクセスおよび整理できるため、ビジネス・ビューの構築プロセスが簡素化されます。

ビジネス・ビューに基づいて Excel レポートを作成するには、HP ALM Business Views Microsoft Excel アドインをインストールします。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

プロジェクトの計画と追跡

プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリースの機能拡張

リリース・スコープ・アイテムに含めるコンテンツを選択する際、選択した要件、テスト、テスト・セット(および関連付けられたテスト・インスタンス、実行、実行ステップ)にリンクする不具合を含めることができます。

管理の更新

この項では、HP Application Lifecycle Management 11.52 の管理の機能強化について説明します。

サイト設定

[サイト設定] タブに、次のパラメータが追加されました。

- EI_DELETE_INTERVAL
- ENABLE_ENTITY_SELECTION_TREE_REQ_MOVE_TO
- MAX_TESTS_IN_TEST_SET
- SD_RUN_AMOUNT

- SMTP_SSL_SUPPORT
- STATIC_CONTENT_MAX_CACHED_FILE_SIZE

次のパラメータは名前が変更されています。

古いパラメータ名	新しいパラメータ名
QPM_KPI_FAILURES_PERCENTAGE_PER_RELEASE_FUSE	PPT_KPI_FAILURES_PERCENTAGE_PER_RELEASE_FUSE
QPM_RECENTLY_USED_PROJECTS_THRESHOLD_MINUTES	PPT_RECENTLY_USED_PROJECTS_THRESHOLD_MINUTES

新しいパラメータの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

Business Process Testing

HP Application Lifecycle Management 11.52 の新機能は、Business Process Testing エンティティでもサポートされています。さらに以下の Business Process Testing 機能が、ALM 11.52 に新たに導入されるか、あるいは拡張されました。

これらの機能の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

利用可能な機能の変更

自動コンポーネントの実行。 ビジネス・プロセス・テストおよびフローでは、UFT 11.50 を使用する場合、BPT ラッパー・テスト機能は使用しません。

注: ただし、QuickTest Professional で自動化されたビジネス・プロセス・テストまたはフローを実行する場合には、BPT ラッパー・テスト機能を使用できます。

ラボ管理

この項では、HP Application Lifecycle Management 11.52 のラボ管理の機能強化について説明します。

マイナー・マイナー・バージョンへのアップグレードに対応したラボ・プロジェクトの自動アップグレード

マイナー・マイナー・バージョンにアップグレードする場合、データベース・スキーマ影響するものでも、ラボ管理プロジェクトのアップグレードは自動になりました。HP バージョン番号付けスキームの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

HP ALM Lab Service

HP ALM Lab Service は、次のように更新されました。

- 自動ログイン機能を使用すると、自動的にテストング・ホストにログインしてテストを実行するように、ラボ・サービスを設定できます。
- ラボ管理の[テストングホスト]グリッドで実行中のラボ・サービスのバージョンを表示できます。


推奨される継続時間

機能テスト・セットとビルド検証スイートからテストを実行している場合、[推奨される継続時間]を使用すると、以前のテスト実行に基づいてテストの継続時間を設定できます。

ALM ヘルプ

HP ALM ヘルプは、次のように更新されました。

オンライン・ヘルプ

- オンライン・ヘルプには、新しいホームページが追加されました。このページから、ALM の起動、主要なタスク、上級ユーザ向けのトピック、「方法」の紹介ムービーに簡単にアクセスできます。また、ALM アドインや製品機能の紹介ムービーなどの外部リソースへのリンクも含まれています。詳細については、ALM のメイン・ウィンドウで[ヘルプ] > [ドキュメント ライブラリ]を選択してください。
- オンライン・ヘルプの検索タブにフィルタ機能が追加されました。これにより、ALM ヘルプ内の書籍での検索結果を絞り込むことができます。検索キーワードを入力して検索を実行した後、フィルタで検索対象となる書籍を切り替えることができます。検索結果には、選択した書籍がすぐに反映されるので、検索を再実行する必要はありません。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
-  特定のタスクの実行方法を説明するために、「方法」の紹介ムービーが追加されました。これらのムービーには、そのタスクを対象とするオンライン・ヘルプ・ページ内およびホームページからアクセスできます。詳細については、ALM のメイン・ウィンドウで[ヘルプ] > [ドキュメント ライブラリ]を選択してください。

第2章: HP ALM Performance Centerの新機能

この新機能ガイドでは HP ALM Performance Center 11.52 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。HP ALM の使用方法の詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで[ヘルプ]>[ムービー]を選択することで、HP ALM Performance Center の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

Performance Application Lifecycle(PAL) の更新情報	17
Performance Center ライセンスの更新情報	17
Shunra ネットワーク仮想化の拡張機能	17
My Performance Center のログイン・アクセス	18
VuGen の拡張機能	18
Load Generator - Linux のディストリビューション	19
アナリシスの拡張機能	19
Controller の拡張機能	19
プロトコル	20

Performance Application Lifecycle(PAL) の更新情報

実行時またはその後にテストをチューニングできるようになりました。実行時にテストをチューニングする場合、フレームワークを使用すると、継続的にデータを調整して変更内容をほぼ即座に表示できます。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

Performance Center ライセンスの更新情報

Performance Center ライセンス・モジュールには、次の拡張機能が追加されました。

- Performance Center とホスト・ライセンスをインストールする場合、1つのライセンス・ファイルで両方のライセンスをインストールできるようになりました。
- PC ライセンス・モジュール・ウィンドウのユーザ・インタフェースがさらにわかりやすくなり、操作性も向上しました。

詳細については、『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

Shunra ネットワーク仮想化の拡張機能

最新の Shunra ネットワーク仮想化では、次の拡張機能が追加されました。

- HP ALM Performance Center と Shunra ネットワーク仮想化 (旧 Shunra WAN エミュレーション) 間の統合が改善され、仮想ユーザごとにネットワーク仮想化を実行し、Load Generator ごとに複数の場所を定義できるようになりました。
- モバイル・ネットワークをシミュレートする、共有または非共有の帯域幅のサポートが追加されました。
- パフォーマンス・テストの実行ページと LoadRunner Analysis に新しいネットワーク仮想化グラフが追加されました。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

My Performance Center のログイン・アクセス

HP Application Lifecycle Management のオプション・ウィンドウから My Performance Center にログインできるようになりました。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

VuGen の拡張機能

VuGen のユーザビリティと機能

次のような改善が行われました。

- 再生サマリ・レポートに詳細な統計が表示されるようになりました。たとえば、接続、コンテンツ・タイプ、応答コードに関する情報です。
- 実行環境設定のユーザ・インターフェースが改善されました。
- HP Live Network HPLN に対してコンテンツをダウンロードおよびアップロードできる新機能が追加されました。
- LoadRunner プロキシ記録機能を使用して、スクリプトを作成できます。VuGen マシンは、モバイル・デバイスとターゲット・サーバ間のすべてのトラフィックを取得するプロキシ・サーバとして機能します。

VuGen のパフォーマンス

次のような改善が行われました。

- 複数のスクリプトを開く、削除する、閉じる、使用することができます。
- スクリプトの再生
- Web スナップショット
- ステップ・ナビゲータの使用
- ALM の使用
 - スクリプトのアップロードと再生
 - スクリプトのコンパイル

Load Generator - Linux のディストリビューション

- Load Generator は、次の Linux のディストリビューションにインストールできるようになりました。

Linux のディストリビューション	サポートされるバージョン	アーキテクチャ	サポート元
Red Hat Enterprise Linux	5.0/6.0	x86	9.x 以降
Red Hat Enterprise Linux	5.0/6.0	x64	11.52
Oracle Enterprise Linux 32 ビット	5.0 RH / 6.0 RH	x86	11.52
Oracle Enterprise Linux 64 ビット	5.0 RH 6.0 RH / 6.0 UEK	x64	11.52
Ubuntu Server	10.04 LTS / 12.04 LTS	x86/x64	11.52
Amazon Linux イメージ	2012.03 以降	x86/x64	11.52

- Linux にインストールされている Load Generator では、次のプロトコルがサポートされています。
 - Web HTTP/HTML
 - Mobile(HTTP/HTML)
 - SAP Web
 - C 仮想ユーザ
 - Oracle 2 層
 - Oracle NCA
 - Oracle Web App 11i
- Linux Load Generator インストーラが改善されました。

アナリシスの拡張機能

アナリシスの次の領域では、パフォーマンスが改善されました。

- アナリシスの起動
- テスト結果の読み込み
- リッチ・レポートの生成 (特に 1000 件を超える大量のトランザクション結果のレポート)
- Analysis API での統計計算

Controller の拡張機能

LoadRunner は、ラウンドロビン方式を使用してすべて Load Generator 間のグループを起動するように設定できます。

プロトコル

プロトコルに関する次の拡張機能が追加されました。

- **データ・フォーマット・エクステンション (DFE)**
 - DFE のドキュメントが大幅に拡張されました。
 - DFE ユーザ・インタフェースのデザインが一新されました。
- **Java 1.7:** Java 1.7 のサポートが追加されました。
- **PeopleSoft 9.1:** PeopleSoft 9.1 のサポートが追加されました。
- **RDP**
 - 64 ビット・エージェント:
 - Windows 8 を搭載したサーバ・マシン。
 - RDP 8.0 - Windows 7 と MSTSC 6.2 での記録がサポートされます。
 - セキュリティ保護された認証 - スクリプト再生中のネットワーク・レベル認証がサポートされます。
- **Flex:** LCDS jar が自動的に含まれるようになりました。
- **Citrix:** Citrix エージェントが XenDesktop 環境でサポートされるようになりました。
- **Oracle NCA:** VuGen で関連スキャンと Design Studio がサポートされます。
- **Web Transport プロトコルのブラウザ**
 - 実行環境の設定では、Internet Explorer 10 用のブラウザ・エミュレーションがサポートされます。
 - プロキシ・サーバの使用時にも、Internet Explorer 10 の再生がサポートされます。
 - Linux 上で Web 仮想ユーザ用の web_js API 機能がサポートされます。
 - プロキシ記録機能を使用すると、VuGen をロードできないマシン (Linux マシンやモバイル・デバイスなど) 上で Web HTTP/HTML スクリプトを記録できます。
- **IPv6:** Linux 用のモニタが ICMP, TCP, UDP に対して追加されました。

第2部: HP ALM 11.50 の新機能

第3章: HP ALM の新機能

この新機能ガイドでは HP Application Lifecycle Management(ALM) 11.50 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。ALM の使用方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで[ヘルプ]>[ムービー]を選択することで、HP Application Lifecycle Management の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

インストール	23
ビジネス・ビュー	24
ラボ管理	24
ユーザに関する更新	25
管理の更新	26
利用可能な機能の変更	28
Business Process Testing	28
API およびデータベースの更新	29
ALM ヘルプ	29

インストール

インストール・プロセスが、次のように更新されました。詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。

サポートされる環境

ALM サーバおよびクライアント・マシンでサポートおよび推奨されるシステム構成については、『HP Application Lifecycle Management 11.50 Readme』を参照してください。

重要 :『HP Application Lifecycle Management 11.50 Readme』に記載されているサポート対象環境の情報は、ALM 11.50 リリースに関する内容です。ALM 11.50 のパッチについては更新されている可能性があります。最新のサポート環境については、次の URL から HP ソフトウェア Web サイトを参照してください: http://www.hp.com/jp/TDQC_SysReq

ALM は、HP 製の他のテスト・ツールと統合できます。ご使用中のバージョンがサポート対象かどうかを確認するには、[ヘルプ]>[新機能]をクリックします。**ALM 11.50** 統合対応表を選択します。

アプリケーション・サーバ

ALM をホストするために、サードパーティのアプリケーション・サーバをインストールする必要がなくなりました。アプリケーション・サーバは、ALM のコア機能として提供されます。

これには、次のような利点があります。

- サードパーティのアプリケーション・サーバに関する依存関係、メンテナンス、コストを抑えられます。
- トラブルシューティングが簡単になります。
- ALM のメモリ使用量を抑えられます。
- インストール、アップグレード、製品の更新が簡単になります。
- ALM を「クラウド対応」プラットフォームにすることができます。

拡張機能のデプロイメント

HP Enterprise Integration module for SAP applications や HP Service Test Management などの ALM の拡張機能は、ALM に追加機能を提供します。従来、ALM のアドイン・サイトからダウンロードで提供されていた拡張機能は、ALM のインストールの一部として提供されています。ALM の拡張機能のライセンスをお持ちの場合は、プロジェクト単位で拡張機能を有効にすることで、追加された機能を利用することができます。

- 拡張機能の有効化の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
- ALM 11.50 で利用可能な拡張機能のリストを表示したり、ALM の拡張機能のドキュメントをダウンロードするには、ALM の[ヘルプ]メニューからアクセスできる HP ALM アドイン・ページを参照してください。

ビジネス・ビュー

ビジネス・ビュー・グラフには、複雑なプロジェクト・データをビジネスの視点から意味のある方法で表示できる新機能が備わっています。このビジネス・ビュー・グラフは、1 つまたは複数のプロジェクト・エンティティに基づいて作成でき、ビジネス・コンシューマに関連する情報のみを表示します。

ALM では、いくつかの事前定義されたビジネス・ビューの中から選択するか、独自のカスタム・ビューを作成できます。このビジネス・ビュー機能を使用すると、データベース・スキーマを理解しなくてもデータにアクセスできるため、レポートのデザインが簡素化されます。

ビジネス・ビューを作成するには、外観が SQL に類似した DQL を使用します。ただし、DQL は、物理的データベースではなく、ALM 論理モデル(エンティティ、フィールド、関係)に適用されます。また、GUI クエリ・ビルダでは、ALM モデルのビューが提供され、SQL の専門知識が不要になるため、クエリの定義プロセスが簡素化されます。

ラボ管理

HP ALM ラボ管理は、テスト環境の自動デプロイや、手動または自動での機能テストおよびパフォーマンス・テストのスケジューリングに対応した各種ツールを提供することにより、統合とデリバリーを継続的にサポートします。

HP ALM を HP Continuous Delivery Automation(CDA) と統合することにより、プライベート・クラウドまたはパブリック・クラウド上にテスト環境を自動的にデプロイすることができます。

環境をテストするには、複数のテスト・セットとパフォーマンス・テストで構成されるビルド検証スイートを定義し、動的な環境に対してビルド検証スイートを実行します。これは、テスト・スケジュールの最初に CDA によってプロビジョニングとデプロイが行われます。

QA 担当者は、ラボ管理を使用することで、新しい方法でテストの実行を計画することができます。自動機能テストの実行専用のタイムスロットを作成したり、自動実行に必要なテストング・ホストを

要求することができます。QA 担当者が実行に必要なテスト・ツールを利用できるよう、特定のホストを指定したり、特定のテスト・セットの実行に必要なホストのタイプと数を指定することができます。後者の場合、システムによって適合するホストが自動的に割り当てられます。

さらに、新しいテスト・セットの実行レポートを使用すると、QA 担当者は以前のテスト・セットの実行や処理中の実行を表示して、個別のテスト・セットの実行を分析することができます。

ラボ管理を使用すると、テスト・リソースを効果的に集中管理でき、プロジェクトの規模や優先度に基づいてテスト・リソースをプロジェクトに割り当てることが可能になります。これにより、各プロジェクトで必要なテスト・リソースを確保することができます。

ラボ管理者は、プロジェクトに割り当てられるテスト・ホストの数を指定したり、テスト・ホストの名前を指定することができます。テスト・ホストは、優先度やボリュームに従って自動的に割り当てることができます。

また、ラボ管理では、テスト・ホストとの通信セキュリティが強化されているため、ファイアウォールの向こう側にあるテスト・ホストでテストを実行することもできます。これは、ALM サーバからテスト実行を制御することで可能になります。新しいサーバ実行は、ALM クライアントが切断またはログアウトした場合でも継続されます。

ALM エディション: ラボ管理機能は HP ALM および Performance Center エディションで利用できます。

ユーザに関する更新

この項では、HP Application Lifecycle Management 11.50 のユーザビリティの機能強化について説明します。

製品ムービー

製品ムービーはサーバから削除され、外部サイトに移動されました。選択したムービーをサーバにコピーして、[ヘルプ]メニューのカスタム・リンクからこれらのムービーにリンクすることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

標準設定のエンティティ値

テスト、テスト設定、不具合など、新しいエンティティの作成時には、多数のフィールドの入力が必要になることがあります。これらのフィールドの値は同じであることが多く、データの入りは時間のかかる繰り返し作業です。

最新バージョンでは、エンティティごと、ユーザごと、プロジェクトごとに、特定のエンティティの標準設定値を作成できるようになりました。エンティティを作成するたびに、これらの標準設定値を自動的に入力したり、ボタン・クリックで入力することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

メールの拡張機能

ALM のメール・コマンドは、次のように更新されました。

- パラメータを含むエンティティを送信する場合、メールにはそのパラメータも含まれます。
- 詳細、履歴、添付ファイル、実行サマリ、最後の実行ステップを含むテスト・インスタンスを送信できます。

- 実行を、それぞれの実行ステップおよび実行結果と共に送信できます。
- メールは非同期的に送信されます。そのため、ALM での作業の妨げになりません。

Data Awareness の拡張機能

テスト設定などの Data Awareness 機能に、次の拡張機能が追加されました。

- ビジネス・プロセスと UFT のテスト設定パラメータを、外部データ・テーブル・リソースの動的データに自動的にマップすることができます。
- 名前をタイプ入力しなくても、すべてのリソース(Excel) ヘッダが含まれるドロップダウン・リストを使用して、ビジネス・プロセスと UFT のテスト設定パラメータの名前を選択することができます。
- [テスト設定] タブの定義済みフィルタに従って、外部データ・テーブル・リソースのデータをプレビューできます。

ユーザ・インターフェースの詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

テスト・リソースの拡張機能

テスト・リソース・モジュールに、次の拡張機能が追加されました。

- API の共有リソースを追加できるようになりました。これらのリソースには、API の自動テストで使用するためにローカルに保存されるサービスが含まれています。

マニュアルランナーの拡張機能

マニュアルランナーに、次の拡張機能が追加されました。

- テスト・セットの実行で、1つのテスト実行をキャンセルする際に、残りのテスト実行をキャンセルできるようになりました。

プロジェクト・レポートの拡張機能

プロジェクト・レポートに、次の拡張機能が追加されました。

- レポートを .zip ファイルとしてローカルにダウンロードすることができます。
- 既存のグラフをレポートに追加するか、新しいグラフを直接レポートに作成できます。
- 定義済みのプロジェクト・レポートに、要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、ビジネス・コンポーネントの各モジュールからアクセスできるようになりました。

アナリシス・ビューの拡張機能

アナリシス・ビュー・モジュールに、次の拡張機能が追加されました。

- アナリシス・ビュー・モジュールに[アナリシスメニュー]タブが新たに追加されました。このタブを使用すると、プロジェクト管理者は、要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、ビジネス・コンポーネントの各モジュールで、ユーザが利用できるアナリシス項目を管理できます。

管理の更新

この項では、HP Application Lifecycle Management 11.50 の管理の機能強化について説明します。

サイト管理クライアントの同時実行

- ALM でサポートされる同時実行と同様に、複数のバージョンのサイト管理を1台のワークステーションで同時に実行できます。
- Quality Center 10.00 のサイト管理のインスタンスは、ALM 11.50 のサイト管理のインスタンスと同時に開くことができます。
- サードパーティツールを使用し、サイト管理クライアント・コンポーネントを登録してサイト管理の操作をスクリプトに組み込むことができます。詳細については、[HP ALM ツールのアドイン]ページの HP ALM Client Registration アドインを参照してください。

ライセンス管理

サイト管理の変更された[ライセンス]タブを使用することで、ライセンスを特定のドメイン、プロジェクト、ユーザに動的に割り当てることができるようになりました。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

Unicode のサポート

SQL Server 上の ALM プロジェクトで Unicode がサポートされるようになりました。

サイト設定

[サイト設定]タブに、次のパラメータが追加されました。

- ASYNC_MAIL_ENABLED
- CLEAN_ORPHAN_ANALYSIS_DATA_JOB_SLEEP_INTERVAL
- CUSTOM_HELP_MENU_LINK
- CUSTOM_PREREQUISITES_PAGE_URL
- DISABLE_DEFAULT_VALUES
- DISABLE_GET_CHILDREN_LISTS_WITH_VERSIONING
- DOWNLOAD_REST_ATTACHMENTS
- ENABLE_CREATE_STANDARD_REPORT
- ENABLE_CREATE_LEGACY_EXCEL_REPORT
- ENABLE_CREATE_DOCGEN_FAVORITE
- GET_COVERAGE_FROM_BL_FOR_PINNED_TESTSET
- GRAPH_RESULTS_LIFESPAN
- LDAP_RESULT_SIZE_LIMIT
- MAX_CONCURRENT_REPORTS
- MAX_GRAPH_RESULT_DATA_TABLE_VOLUME
- ORPHAN_ANALYSIS_DATA_FILE_INACTIVE_PERIOD
- QPM_KPI_FAILURES_PERCENTAGE_PER_RELEASE_FUSE
- QPM_RECENTLY_USED_PROJECTS_THRESHOLD_MINUTES
- REPORT_MAX_ALLOWED_SIZE

- REPORT_RESULTS_LIFESPAN
- REST_API_HTTP_CACHE_ENABLED
- REPOSITORY_GC_DELAY_CANDIDATE_TIME
- SKIP_CLIENT_PREREQUISITES_CHECK
- UPLOAD_ATTACH_MAX_SIZE

次のパラメータは削除されました。

- ANALYSIS_ITEM_RESULTS_LIFESPAN

新しいパラメータの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

利用可能な機能の変更

HP Application Lifecycle Management 11.50 では、次の機能の一部が利用できなくなりました。

標準レポート

新しい標準レポートを作成することができなくなりました。以前のバージョンの ALM の既存のレポートは、引き続き表示および編集できます。

ドキュメント・ジェネレータ

お気に入りリストに新しいプロジェクト・ドキュメントを追加することはできません。以前のバージョンの既存のお気に入りには、引き続きアクセスと生成が可能です。

Business Process Testing

HP Application Lifecycle Management 11.50 の新機能は、Business Process Testing エンティティでもサポートされています。さらに以下の Business Process Testing 機能が、ALM 11.50 に新たに導入されるか、あるいは拡張されました。

これらの機能の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

テスト・スクリプトのキャンバス

テスト計画モジュールの[テスト スクリプト]タブで、新しいキャンバス・ビューが利用できるようになりました。このビューを使用すると、ユーザはパラメータやリンクも含めてテスト/フローのデータ・フローを視覚化できます。キャンバスでは、ユーザはグラフィカルな表示を使用してテスト・スクリプトを変更できます。キャンバスには、次のような[テスト スクリプト]表示枠のグリッドのすべての機能が含まれています。

- 表示する詳細レベルの設定や、フローとグループの展開/折りたたみの切り替えによる操作性の向上。
- [コンポーネント]および[フロー]表示枠からビジネス・プロセス・テストまたはフローへエンティティをドラッグ・アンド・ドロップ。
- 反復の設定や実行条件の作成などの機能をキャンバスから直接実行。

手動および自動ビジネス・コンポーネントの作成

自動コンポーネントにするか手動コンポーネントにするかを先に決めなくても、ビジネス・コンポーネント

を作成できるようになりました。コンポーネントには、手動デザイン・ステップとオートメーションを含めることができます。手動デザイン・ステップとオートメーションは、いつでもコンポーネントに追加できます。

全般的な拡張機能

コンポーネントおよびフローのパラメータは、グリッドの末尾に追加するだけでなく、既存のパラメータ間に挿入することもできるようになりました。

統合

UFT でビジネス・プロセス・テストの作成と実行ができるようになりました。

API およびデータベースの更新

ALM 11.00 から導入された HP ALM REST API で、日常的なほとんどの機能に対して REST リソースが利用できるようになりました。この機能は、今後のリリースでも引き続き拡張が行われる予定です。REST API は標準の Web サービスを使用するため、プラットフォームに依存しない形で ALM を使用できます。これにより、REST API で次のことが可能になります。

- 古い OTA API では実装が困難な、サーバ同士の統合などのアクティビティをサポートできます。
- ALM の基盤テクノロジーは最新インフラストラクチャをサポートするように進化していくため、将来においても保守管理可能なアプリケーションの開発プラットフォームとなります。

『HP ALM REST API Reference』の次の項を参照してください。

- 「What's new in this release」
- 「Compatibility Breaks between versions 11.00 and 11.50」

ALM 11.50 はクライアント側のデプロイメントを使用するため、ALM の複数のインスタンスに接続することができます。これは、API に次のような形で影響を及ぼします。

- クライアント・マシンで、OTA タイプ・ライブラリおよびサイト管理タイプ・ライブラリが自動的に登録されなくなりました。ALM と OTA またはサイト管理アプリケーションを接続する前に、[ALM ツールのアドイン] ページから HP ALM クライアント登録を実行してサーバのライブラリを登録します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』で、ワークステーションでの ALM の登録に関する説明を参照してください。
- カスタム・テスト・タイプのインストールが変更されました。『HP ALM Custom Test Type Guide』を参照してください。

HP ALM Open Test Architecture Reference のトピック「What's new in this release」を参照してください。

ALM ヘルプ

HP ALM ヘルプは、次のように更新されました。

オンライン・ヘルプ

オンライン・ヘルプ・ブラウザのデザインが変更され、次の拡張機能が追加されました。

- 検索エンジンの改善により、ALM ヘルプで返される検索結果の関連度が向上しました。
- [進む] ボタンと [戻る] ボタンを使用して、前に表示したトピックに戻ることができます。

- お気に入りのトピックにフラグを付けて後で参照することができます。これらのトピックは[お気に入り]表示枠にまとめて表示されます。

新しいドキュメント

次のドキュメントが追加されました。

- HP ALM ヘルプに、『HP ALM ラボ管理ガイド』が追加されました。以前のバージョンでは、このガイドの各項目は『HP ALM Performance Center ガイド』に含まれていました。
- ベスト・プラクティスに関するドキュメントに、次のガイドが新しく追加されました。
 - 『HP ALM Agile Testing Best Practices Guide』では、さまざまな組織でアジャイル・テストの原則を実施するためのベスト・プラクティスについて説明します。
 - 『HP ALM Versioning and Baselining Best Practices Guide』では、さまざまな組織において、バージョン管理を実施し、ベースラインの作成およびメンテナンスを行うためのベスト・プラクティスについて説明します。
 - 『HP ALM Project Topology Best Practices Guide』では、さまざまな組織で HP ALM プロジェクトを構造化するためのベスト・プラクティスについて説明します。
 - 『HP ALM Entities Sharing Best Practices Guide』では、さまざまな組織でエンティティ共有を実施するためのベスト・プラクティスについて説明します。
 - 『HP ALM Project Planning and Tracking Best Practices Guide』では、さまざまな組織でリリースの管理と追跡を実施するためのベスト・プラクティスについて説明します。
- API リファレンスに関するドキュメントに、次のガイドが新しく追加されました。
 - 『HP ALM .NET Custom Test Type Developer Guide』では、.NET プラットフォーム上でカスタム・テスト・タイプの作成とインストールを行う手順について説明します。『COM Guide』は、『HP ALM COM Custom Test Type Developer Guide』に名前が変更されました。

第4章: HP ALM Performance Centerの新機能

この新機能ガイドでは HP ALM Performance Center 11.50 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。HP ALM の使用方法の詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで[ヘルプ]>[ムービー]を選択することで、HP ALM Performance Center の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

インストール	31
Performance Application Lifecycle(PAL)	31
仮想化サービスの統合	31
VuGen の拡張機能	32
プロトコル	32
64 ビット・アプリケーションの記録	34

インストール

Performance Center の拡張機能は、ALM のメイン・インストール・プロセスの一部としてインストールとデプロイが行われるようになりました。Performance Center のライセンスをお持ちの場合は、プロジェクト単位で拡張機能を有効にすることで、追加された機能を利用することができます。拡張機能の有効化の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

Performance Application Lifecycle(PAL)

Performance Application Lifecycle(PAL) を使用すると、パフォーマンス・テストとアプリケーションのデプロイメントをより効率的に計画するために開発と運用の間でパフォーマンス情報を共有できます。これには、スクリプト、ユーザ・トラフィック、システム・モニタなどの情報が含まれます。この情報は、運用環境をより正確に反映したスクリプトと負荷テストを作成するのに使用できます。パフォーマンス・テスト情報を運用との間で共有することで、アプリケーションをデプロイする時期を決定することができます。PAL では、HP Business Service Management(BSM) および Webtrends Analytics のデータをサポートしています。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

仮想化サービスの統合

パフォーマンス・テストの一環として、ビジネス・シナリオに含まれる他のサービスに依存するアプリケーションをテストできます。実際のサービスをロードする代わりに、テスト実行でシミュレートされたサービスを使用できます。仮想化サービスは、実際のサービスをシミュレートしたものです。簡単に使用できないサービスや高コストなサービスを含むビジネス・プロセスの負荷テストを容易にするため、Performance Center に HP Service Virtualization が統合されます。この統合により、実際のサービスをシミュレートする仮想化サービスを実行することができます。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

VuGen の拡張機能

VuGen のユーザ・インタフェースが改善され、柔軟かつカスタマイズしやすいユーザ・インタフェースを実現できるように強化されました。IDE の刷新により、LoadRunner のスクリプト作成が容易になり、生産性が向上します。

次の拡張機能が追加されました。

- 新しいルック・アンド・フィール - 柔軟性の高い表示枠やレイアウトなど
- ソリューション・エクスプローラ - 複数のスクリプトのグループ化、スクリプト項目へのアクセス、スクリプト関連の操作を容易に行うことができます。
- スナップショット - 複数のビュー、パフォーマンスの改善、スナップショットの同期、検索機能。
- エディタの改善 - コンテキスト依存のサポート、コード補完のサポート、色分け表示と書式設定の強化。
- デバッガ - 実際の C 言語デバッガ。
- 検索と置換 - 新しい機能にはログおよびスナップショットの検索が含まれます。
- ステップ・ナビゲータ - ステップ・ナビゲータはツリー・ビューに代わる新しい機能で、フィルタリングと検索を簡単に行える 1 つのビューでスクリプトを表示します。
- 新しい表示枠 - エラー、タスク、ブックマークの表示枠では、シンプルで見つけやすいビューにすべてのエラー、メッセージ、タグが表示されます。
- コミュニティへの参加 - コミュニティとの統合により、HP Software Community の会話やスレッドに容易にアクセスできます。

プロトコル

Ajax TruClient Firefox の拡張機能

Ajax TruClient Firefox プロトコルが最新のテクノロジーをサポートするように強化され、顧客ニーズに応じてユーザビリティに関するさまざまな改善が行われました。

Ajax TruClient Firefox プロトコルに、次の拡張機能が追加されました。

- Firefox 8 への移行によるパフォーマンスの改善。
- HTML5 のサポート。
- コードを容易に再利用および共有するための関数の作成。
- 思考遅延時間の記録。
- 非同期動作をサポートするイベント・ハンドラ。
- URL フィルタリング用の API。
- HTTP ヘッダを設定するための API。
- ステップごとの自動トランザクション。

- Ajax TruClient Internet Explorer: TruClient の機能を Internet Explorer 9 で利用するための新しいプロトコルです。このプロトコルが Ajax TruClient ファミリに追加されたことで、サポート対象が Internet Explorer(IE) ベースのアプリケーションに拡張されます。

Web プロトコルの非同期サポート

非同期動作のサポートが追加されました。この機能の追加により、ポーリング、ロング・ポーリング、プッシュのやり取りの記録が可能になります。

高度な Web アプリケーションでは、情報を最新の状態に維持するために多くの非同期通信が使用されています。チャット、メッセージング、株価ティッカー、ニュースの更新などのアプリケーションはすべて、ポーリング、ロング・ポーリング、プッシュなど、さまざまな非同期メカニズムを使用してデータを管理します。これらのメカニズムのサポートが、Web(HTTP/HTML) 仮想ユーザ・スクリプトと、Flex, Silverlight, Web サービス仮想ユーザ・スクリプト内の Web ベース機能に追加されました。これらは固有通信パターンが自動認識され、それに合わせて記録されたスクリプトが更新されます。

関連処理の改善

新しい応答関連機能が追加されたことにより、関連処理が簡単かつ高速になりました。記録中にサーバの応答に基づいて関連を検出できるようになったため、多くのケースでは、動的な値を検出するために再生を繰り返す必要がなくなります。Correlation Studio の新しいインタフェースと、XPath および正規表現に基づいてパラメータを特定する新しい API を組み合わせることで、すばやく簡単にスクリプトを作成することができます。

Flex の拡張機能

Flex 環境のサポートを改善するために、さまざまな拡張機能が追加されました。

Flex の拡張機能は次のとおりです。

- Web 関連メカニズム(ルール, Correlation Studio, 応答ベースの関連, Web 関連 API)の使用。
- Web リクエストのサポート。
- Adobe Flex プラットフォームの jar ファイルが製品にバンドルされているため、メッセージのシリアル化にアプリケーションの jar ファイルが不要。
- RTMP(FMS) ストリーミングのサポート。
- RTMPT および RTMPS のサポート。
- GraniteDS のサポート。

モバイル・プロトコル

モバイル・アプリケーション用のスクリプトを開発するための新しいプロトコルです。ネイティブ・アプリケーションではトラフィック・ベースの分析が使用され、ブラウザ・ベースのモバイル・アプリケーションでは Ajax TruClient テクノロジーが使用されます。

Google Web Toolkit(GWT)用のデータ書式拡張機能(DFE)

Web プロトコルに DFE を組み込むことで、GWT のリモート・プロシージャ・コールの一部としてやり取りされる GWT の情報のデコードとエンコードをサポートします。これにより、GWT ベースの Web アプリケーションの関連とパラメータ化を容易に行うことができます。DFE 機能を使用すると、フォーマットされたデータをやり取りするアプリケーションのスクリプト作成が容易になります。フォーマットされたデータをさらに読みやすい形式に変更することで、スクリプトの関連とパラメータ化を容易に行うことができます。GWT 用の DFE は、すでにサポートされている形式(Base64, JSON, URLEncoding, XML, Prefix-Postfix)に新たに追加されたものです。

GWT のサポートには、次の内容が含まれます。

- GWT のRPC データが判読可能かつ相関可能な内容にフォーマットされます。
- オブジェクトのフィールド名など、より多くのデータが公開されます。
- パラメータ化が容易になります。
- GWT 固有の相関が解決されます。

.NET4 のサポート

.NET プロトコルで .NET4 Framework がサポートされるようになりました。

既存の .NET Framework 2 ~ 3.5 のサポートに .NET4 のサポートが追加されました。

Web サービスの拡張機能

Web サービス・プロトコルに、セキュリティ・サポートの向上、WCF の処理の改善、顧客フィードバックに基づく改善に対応した新機能が追加されました。

Web サービス・プロトコルに、次の拡張機能が追加されました。

- セキュリティ設定(アドレス指定バージョンなど)に対応したインターフェースの改善。
- 証明書の簡易選択。
- 署名および暗号化アルゴリズムの柔軟な定義。タイムスタンプを除外するオプションも追加。
- WCF に対するカスタム拡張機能のサポート。
- WCF に対応した LoadRunner の HTTP 機能のサポート。

64 ビット・アプリケーションの記録

64 ビット・オペレーティング・システムの既存のサポートに、64 ビット・アプリケーションの記録が追加されました。64 ビット・アプリケーションは通常、Windows タスク・マネージャにサフィックス「*32」が表示されない場合に64ビットと認識されます。再生は32ビットです。

第3部: HP ALM 11.00 の新機能

第5章: HP ALM の新機能

この新機能ガイドでは HP Application Lifecycle Management(ALM) 11.00 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。ALM の使用方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで[ヘルプ]>[製品の機能紹介ムービー]を選択することで、HP Application Lifecycle Management の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

インストール	37
最適化されたプロジェクト・リポジトリ	38
ALM クライアントの同時実行	38
プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリース	38
ビジネス・プロセス・モデルの統合	39
トレーサビリティ・マトリクス	39
テスト設定	39
新しいマニュアル・ランナー HP Sprinter	39
プロジェクト・レポート	40
ユーザに関する更新	40
管理の更新	42
利用可能な機能の変更	45
Business Process Testing	46
REST ベースの API セット	48
API およびデータベースの更新	48
ALM ヘルプ	49

インストール

インストール・プロセスが、次のように更新されました。詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。

インストール・ウィザード

- インストール・プロセス全体に検証が追加されました。
- インストール・ウィザードは、ファイルのインストールとサーバの設定の2段階で構成されるようになりました。このため、アプリケーションを再インストールしなくてもサーバを再設定することができます。

データ・セキュリティ

ALM は、外部システム(データベース、Windows、LDAP)にアクセスするための情報を暗号化して、他の HP BTO アプリケーションとの通信をセキュリティで保護します。

ALM クライアント

ALM クライアントのインストールで、マシンの管理者権限が必要なくなりました。一部のアドインのインストールには、引き続き管理者権限が必要です。

最適化されたプロジェクト・リポジトリ

プロジェクト・ファイルは最適化されたリポジトリ・システムに保存されるようになりました。これにより、一般的な操作のパフォーマンスが向上し、ファイル・システムの容量が拡張されます。

プロジェクト・リポジトリのファイルは最適化されたフォルダ構造内に保存されるため、ストレージ領域を最大限に活用できます。さらに、2つのファイルの内容がまったく同じである場合、リポジトリには1回だけ保存されます。こうして、ディスク領域を大幅に減らせます。たとえば、同じファイルを複数の ALM レコードに添付する場合、このファイルはプロジェクト・リポジトリに1回だけ保存されます。

さらに、FTP クライアント(ALM 11.00 Patch 01 で利用可能)を使用して最適化されたリポジトリを参照することができます。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

Quality Center 9.2 または 10.00 からアップグレードする場合、ALM は従来のプロジェクト・リポジトリから最適化されたプロジェクト・リポジトリにファイルを移行します。

ALM クライアントの同時実行

1台のワークステーションで HP Application Lifecycle Management(ALM)の複数のバージョンを同時に実行できるようになりました。たとえば、複数の ALM 11.00 クライアントを異なる ALM サーバに接続したり、Quality Center 10.00 または 9.2 クライアントを単体で使用することが可能です。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。

プロジェクトの計画と追跡(PPT)リリース

プロジェクトの計画と追跡(PPT)機能を使用することで、リリース・モジュールでアプリケーション・リリース作業のマイルストーンを定義し、アプリケーションの準備状況を追跡できるようになりました。PPT では、主要業績評価指標(KPI)を使用して、定義したマイルストーンのデータを分析します。リリースの全体的な正常性やデプロイメントの準備状況は、スコアカードの形式で表示されます。スコアカードは、各マイルストーンの日々の達成状況を監視および追跡します。出力結果をさらに分析するために、ダッシュボード・レポートおよびグラフを作成できます。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

Quality Center Editions: PPT は Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, または HP ALM Performance Center Edition では利用できません。

ビジネス・プロセス・モデルの統合

外部のモデル・オーサリング・ツールで作成したビジネス・プロセス・モデルをインポートできるようになりました。新しいビジネス・モデル・モジュールにビジネス・プロセス・モデルをインポートすると、各モデルおよびアクティビティを表す要件の枠組みが自動的に作成されます。その後、テスト・カバレッジを作成し、ビジネス・プロセス・モデルの品質を評価することができます。

さらに、エンドツーエンドのアクティビティのシーケンスを表すモデルにパス・エンティティを追加し、ビジネス・フローをテストすることもできます。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』および『HP ALM Business Models Best Practices Guide』を参照してください。

Quality Center Editions: ビジネス・モデル・モジュールは、Quality Center Starter Edition または HP ALM Performance Center Edition では利用できません。

トレーサビリティ・マトリクス

要件モジュールでトレーサビリティ・マトリクス・ビューを使用することで、要件同士の関係や、要件とテストの関係の範囲を特定できるようになりました。トレーサビリティ・マトリクスは、すべての要件の適合性の検証や、要件スコープに対する変更が発生した場合の変更の特定に役立ちます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

テスト設定

テスト計画モジュールの[テスト設定]タブでは、異なるユースケース(それぞれ異なるデータ・セットを使用)に従って実行されるテストを設計できるようになりました。各ユースケースはテスト設定と呼ばれます。テスト設定に対する値は、ALM プロジェクトまたは外部データ・ソースから提供されます。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

新しいマニュアル・ランナー HP Sprinter

新しいHP Sprinterを使用して、テスト・ラボ・モジュールからALMの手動テストを実行できるようになりました。Sprinterは、手動テスト・プロセスを支援する拡張機能と各種ツールを備えており、次の機能を備えています。

- 画面キャプチャを作成して注釈をつける
- テスト実行のムービーを撮影する
- テスト・アプリケーション上でマクロを記録して実行する
- アプリケーションのフィールドに自動的にデータを入力する
- 送信する不具合に、ステップまたはユーザ操作のリストを自動的に含める
- ユーザ操作を複数のマシンに異なる構成で複製する

詳細については、『HP Sprinter ユーザーズ・ガイド』(HP Application Lifecycle Management アドイン・ページからアクセス)を参照してください。

ALM エディション: Sprinter の機能は、Quality Center Starter Edition または HP ALM Performance Center Edition では利用できません。

プロジェクト・レポート

アナリシス・ビュー・モジュールで、プロジェクト・レポートという新しいレポート・ツールが利用できるようになりました。このツールでは、プロジェクト・データに関する包括的なレポートをデザインして生成できます。プロジェクト管理者がALM エンティティごとにデザインしたテンプレートを使用し、レポート・セクションに含まれるエンティティを選択してデータ・フィルタを定義することで、プロジェクト・レポートを作成します。

プロジェクト・レポートには、次のような利点があります。

- MS Word テンプレートによるリッチなスタイルとレイアウト
- パフォーマンスの向上
- 1つの設定で複数の出力フォーマットに対応 (doc, docx, html, pdf)
- テンプレート管理の一元化

詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ユーザに関する更新

この項では、HP Application Lifecycle Management 11.00 のユーザビリティの機能強化について説明します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

モジュール・ナビゲーション

新しいモジュール・ナビゲーション・サイドバーを使用すると、ALM で利用可能なモジュールにすばやくアクセスできます。

お気に入りビュー

サブフォルダを追加して、お気に入りビューを整理できるようになりました。たとえば、製品、リリース・バージョン、チームごとにフォルダを作成して、お気に入りビューを整理することができます。

ライブラリの拡張機能

ライブラリ・モジュールに、次の拡張機能が追加されました。

- **ライブラリの作成処理の改善:**
 - **ライブラリのフィルタ処理:** 以前のバージョンでは、ライブラリの作成時に、選択したフォルダ内のすべてのレコードがライブラリに追加されていました。ALM 11.00 では、ライブラリの作成時に、追加するエンティティ・ツリーごとにフィルタを定義できるため、ライブラリの内容を適切に制御できます。
 - **ベースラインの作成時に関連エンティティを自動的に追加:** 以前のバージョンでは、テストを含むライブラリを作成する際に、呼び出されるテストやテスト・リソースなど、テストの実行に必要なすべての関連エンティティを選択する必要がありました。ALM 11.00 では、ライブラリのベースラインの作成時に、これらの関連エンティティが自動的に追加されます。

- **カバレッジに基づいてライブラリにテストを追加**:ライブラリに追加するテストを選択する際に、要件をカバーするテストだけをライブラリに自動的に追加するオプションが利用できるようになりました。
- **ベースラインとライブラリの比較結果をエクスポート**:ベースラインとライブラリの比較結果を .csv ファイル形式で保存できるようになりました。

Quality Center Editions: Quality Center Starter Edition では、ライブラリ・モジュール機能は利用できません。

要件の拡張機能

要件モジュールに、次の拡張機能が追加されました。

- **要件の順序設定**:以前のバージョンでは、要件は作成順に要件ツリーに追加されていました。順序を変更する場合は、選択したフィールドでツリーをソートしていました。ALM 11.00 では、ツリー内で任意の論理順序で要件を移動することができます。
- **リッチ・テキスト・エディタ**:ALM 11.00 では、リッチ・テキスト機能が改善されました。次の拡張機能が追加されています。
 - Microsoft Word ベースのエディタから HTML エディタに変更
 - 表示可能領域が拡大
 - リッチ・テキストの起動と保存のパフォーマンスが向上
 - 検索可能フィールドとして利用可能
 - リッチ・テキスト・テンプレートの使用が可能

テスト実行の拡張機能

テスト・ラボ・モジュールに、次の拡張機能が追加されました。

- テスト・ラボ・モジュールには、次の2つのメイン・タブが含まれます。
 - [テスト セット]タブには、テスト・セット・ツリー・ビューが表示されます。
 - [テスト実行]タブには、グリッド内のすべてのプロジェクト実行が表示されます。テスト・セット・グリッド・ビューは利用できなくなりました。
- **実行の管理**:1つのグリッド・ビューでプロジェクトのすべての実行の表示とフィルタ処理を実行できるようになりました。これは、テスト・ラボ・モジュールの新しい[テスト実行]タブで利用できます。
- **ドラフト実行**:テストをドラフト実行として設定し、ALM が実行結果を無視するように指定できるようになりました。これにより、テスト・ステータスやカバレッジ・ステータスなどの統計データに影響を与えずに、開発中のテストや変更後のテストを試すことができます。
- **実行の状態フィールド**:テスト実行の新しい[状態]フィールドを使用して、実行の進行状況を追跡できます。
- **実行の Blocked ステータス**:テスト実行に新しいステータスが追加されました。**Blocked** ステータスは、テストが実行できないことを示します。これにより、時間不足などの理由で完了しなかったテストと、その他の理由(ネットワークの問題やハードウェアの障害など)で完了しなかったテストとを区別することができます。
- **実行サマリ**:テスト・セットの実行完了時に、ALM から指定したユーザにテスト結果のサマリを電子

メールで送信できるようになりました。このオプションは[オートメーション]タブで利用できます。

- [テスト インスタンスのプロパティ]ダイアログ・ボックスの名前が、[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックスに変更されました。

ダッシュボードの拡張機能

ダッシュボード・モジュールに、次の拡張機能が追加されました。

- **ダッシュボード・モジュール:**ダッシュボード・モジュールに、次の2つのサブモジュールが追加されました。
 - **アナリシス・ビュー・モジュール:**[アナリシスビュー]タブに表示されていたアナリシス項目が含まれます。
 - **ダッシュボード・ビュー・モジュール:**[ダッシュボード ビュー]タブに表示されていたダッシュボード・ページが含まれます。
- **グラフ:**次の拡張機能がグラフに追加されました。
 - **グラフの共有:**ALM クライアントをダウンロードしなくても、グラフを共有して Web ブラウザで表示できるようになりました。
 - **設定オプション:**進行状況グラフおよびトレンド・グラフで、グラフがカバーする期間を完全に制御できるようになりました。

タスク・マネージャ

プロジェクトで実行される非同期タスクの進行状況やステータスを表示できるようになりました。新しい[タスク マネージャ]ダイアログ・ボックスには、ベースラインの作成やライブラリのインポートなど、バックグラウンドで実行されているタスクが表示されます。

セッションの再接続

ALM セッションが非アクティブになって一定時間が経過すると、そのセッションは期限切れになります。この場合、以前のバージョンではユーザはログアウトしてから再ログインする必要がありました。また、プロジェクトのカスタマイズの再ロードも必要でした。

このバージョンでは、セッションが期限切れになると再接続のプロンプトが表示されます。プロジェクト管理者がプロジェクトのカスタマイズに重要な変更を加えていなければ、カスタマイズの再ロードは実行されないため、すぐに再接続して処理中の作業を継続できます。

管理の更新

この項では、HP Application Lifecycle Management 11.00 の管理の機能強化について説明します。を参照してください。

LDAP ユーザのインポート

以前のバージョンでは、LDAP ツリーを参照してフィルタ処理を行うことで LDAP ユーザをインポートすることができました。ALM 11.00 では、キーワードを入力して LDAP ユーザを検索することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクト拡張機能の有効化

以前のバージョンでは、プロジェクトを作成した後でなければプロジェクトの拡張機能を有効にできませんでした。最新バージョンでは、プロジェクトの作成時にプロジェクトの拡張機能を有効にすることが可能になりました。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照

してください。

クロス・プロジェクト・カスタマイズ

テンプレートのカスタマイズを適用する際に、テンプレート内のモジュール・アクセスのカスタマイズがリンクされたプロジェクトに適用されるようになりました。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

Quality Center Editions: クロス・プロジェクトのカスタマイズは、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では利用できません。

ユーザの非アクティブ化

「サイト管理」でユーザを非アクティブ化できるようになりました。非アクティブなユーザは、ALM のプロジェクトにログインできません。これにより、ユーザの詳細の管理を行う際にプロジェクトに対するユーザ・アクセスを一時的に拒否して、ユーザの設定やアクセス許可を保持することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

テスト・タイプの更新

このバージョンからは、カスタム・テスト・タイプを ALM に登録した後に、「サイト管理」で変更内容をアクティブなプロジェクトと同期する必要があります。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

QC Sense

新しい内部監視ツールである QC Sense を使用して、ALM の使用状況とパフォーマンスのデータを分析できるようになりました。QC Sense は、ALM のユーザ・インタフェースで実行されるユーザ操作のデータを収集し、その操作によって発生するクライアントとサーバのすべてのアクティビティを監視します。QC Sense のデータに基づいてレポートを生成し、パフォーマンスの調査や比較を行うことができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

カスタマイズの変更内容の保存

プロジェクトのカスタマイズに対する変更内容を、メジャー変更またはマイナー変更として保存できるようになりました。この選択オプションによって、セッションの期限切れ後にユーザが再接続したときに、カスタマイズ内容が再ロードされるかどうかが決まります。プロジェクトのカスタマイズに対してメジャー変更を行っていない場合、カスタマイズ内容が再ロードされないため、再接続に時間がかかりません。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

サイト設定

[サイト設定] タブに、次のパラメータが追加されました。

- DEBUG_CLOSURE_LOG_DOM_PROJ
- DISABLE_PASSWORD_OTA_ENCRYPTION
- ENTITY_LINK_HOST
- ENTITY_LINK_PORT
- EVENT_LOG_PURGE_PERIOD_DAYS
- EXTENDED_MEMO_FIELDS
- FAST_RECONNECT_MODE

- FETCH_LIMIT(ALM 11.00 Patch 01 で利用可能)
- LIBRARY_FUSE
- QC_SENSE_REPORT_USERS(ALM 11.00 Patch 01 で利用可能)
- REQUIREMENTS_LIBRARY_FUSE
- REST_API_DEFAULT_PAGE_SIZE
- REST_API_MAX_PAGE_SIZE
- REST_SESSION_MAX_IDLE_TIME
- SSO_EXPIRATION_TIME
- SUPPORT_TESTSET_END

次のパラメータは削除されました。

- ALLOW_REQ_COVERAGE_BY_TEST_INSTANCE
- LIBRARY_BROKEN_LINKS_VERIFICATION_FUSE

ワークフロー・イベント

次のモジュールでワークフロー・イベント・プロシージャが追加されました。

モジュール	イベント
リリース	<ul style="list-style-type: none"> • ReleaseFolder_AfterPost
ビジネス・モデル	<ul style="list-style-type: none"> • CanRelImportModels • BusinessModel, BusinessModel_Activity, BusinessModelPath, BusinessModelFolder エンティティに対するさまざまなイベント(_MoveTo, _FieldChange など)。
ビジネス・コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> • CanAddComponentstoTest • CanRemoveComponentsFromTest • CanAddFlowsToTest • CanRemoveFlowsFromTest • CanDeleteGroupsFromTest • Component_CanDelete および ComponentFolder_CanDelete(コンポーネントとコンポーネント・フォルダで独立した CanDelete イベント構文が利用できるようになりました)。 • ComponentFolder エンティティに対するさまざまなイベント(_New, _FieldChange など)。

モジュール	イベント
テスト計画	<ul style="list-style-type: none">• Test_CanDelete および TestFolder_CanDelete(テストとテスト・フォルダで独立した CanDelete イベント構文が利用できるようになりました)。• TestFolder および TestConfiguration エンティティに対するさまざまなイベント(_New, _FieldChange など)。
テスト・ラボ	<ul style="list-style-type: none">• RunTests_Sprinter• TestSet_CanDelete および TestSetFolder_CanDelete(テスト・セットとテスト・セット・フォルダで独立した CanDelete イベント構文が利用できるようになりました)。• TestSetFolder エンティティに対するさまざまなイベント(_New, _FieldChange など)。

その他の機能強化は、次のとおりです。

- GetDetailsPageName イベントが、不具合エンティティだけでなく、すべてのエンティティでサポートされるようになりました。
- 一部のイベントは新規プロジェクトではサポート対象外となりましたが、後方互換性を確保するため、アップグレードしたプロジェクトでは利用可能です(例: MoveToSubject および GetNewReqPageName)。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

利用可能な機能の変更

HP Application Lifecycle Management 11.00 では、次の機能のサポートが終了しました。

WinRunner EOL

ALM 11.00 では、WinRunner テストを作成することができなくなりました。ただし、Quality Center の旧バージョンからアップグレードする場合は、既存の WinRunner テストを引き続き実行することができます。

不具合のカスタマイズ: [不具合の追加]ダイアログ・ボックスの[表示フィールド]

ALM 11.00 では、グループのカスタマイズで[不具合の追加]ダイアログ・ボックスの[表示フィールド]が利用できなくなりました。表示される不具合フィールドを指定するには、カスタマイズ・モジュールの[グループとアクセス許可]ページの[データ非表示]タブで[フィールドの選択]ダイアログ・ボックスを使用します。代わりに、ワークフロー・スクリプトを記述することもできます。

不具合の印刷

不具合モジュールで、不具合グリッドから不具合を直接印刷できなくなりました。代わりに、不具合データをエクスポートするか、または不具合データのグラフまたはレポートを生成することができます。

ライブラリの破損したリンクの検証

ALM 11.00 では、ベースラインの作成処理において、破損したリンクの検証が行われなくなりました。ベースラインの作成処理では、ライブラリ内のテストの実行に必要なすべての関連エンティティが自動的に含まれるようになりました。詳細については、「[ライブラリの拡張機能](#)」(40ページ)を参照してください。

不具合グリッドの固定カラム

不具合グリッドに表示される非スクロール・カラムの設定に関するオプションが利用できなくなりました。

グリッドへの必須フィールドの追加

テストをテスト・セットに追加する場合、または不具合の作成や更新を行う場合に、グリッドに必須フィールドを自動的に追加するオプションが利用できなくなりました。代わりに、[カラムの選択]オプションを使用して必須フィールドを追加することができます。

既存の権限セットのユーザ・グループへの割り当て

新しいユーザ・グループを作成する場合に、そのグループに割り当てる権限と同じようなアクセス権限を持つ既存のユーザ・グループの権限を割り当てることができます。別のグループの権限に従って、ユーザ・グループの権限を後からリセットするオプションは利用できなくなりました。

以前のバージョンからのプロジェクトへのユーザの追加

ALM 11.00 では、プロジェクトをアップグレードする前に、以前のバージョンからプロジェクトにユーザを追加することはできません。

Business Process Testing

HP Application Lifecycle Management 11.00 の新機能は、Business Process Testing エンティティでもサポートされています。さらに以下の Business Process Testing 機能が、ALM 11.00 に新たに導入されるか、あるいは拡張されました。

QuickTest 自動コンポーネントを実行する場合のパフォーマンスの向上

パフォーマンスを向上させるため、QuickTest 自動コンポーネントだけを含むビジネス・プロセス・テストまたはフローは、BPT ラッパー・テストと呼ばれる機能を使用して QuickTest テストとしてコンパイルされるようになりました。テストの実行時には、ユーザが何も操作しなくても、テストおよびフローは自動的にラップされます。BPT ラッパー・テスト機能を使用したテストの実行の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ユーザ・インタフェースの強化

Business Process Testing のユーザ・インタフェースに、次の拡張機能が追加されました。

- テスト計画のビジネス・プロセス・テストとフローの「ルック・アンド・フィール」の設計が変更されました。たとえば、コンポーネント・リストは階層構造のないリストでしたが、これがツリー表示のリストに置き換えられたため、ツリー内でコンポーネント・グループを展開したり折りたたむことができます。
- [反復]ダイアログ・ボックスで、値の検索や複数/単一反復ビューの切り替えなど、新しい機能が利用できるようになりました。

アプリケーション領域の改善

アプリケーション領域は標準テスト・リソースになり、ALM テスト・リソース・モジュールから利用できるようになりました。そのため、各アプリケーション領域および各アプリケーション領域のコンテンツ(オブジェクト・リポジトリや関数ライブラリなど)にリンクされているコンポーネントを容易に認識することができます。

改善点は次のとおりです。

- アプリケーション領域を ALM テスト・リソース・モジュール内で作成できるようになりました。QuickTest Professional テスト・ツールを開く必要はありません。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- アプリケーション領域に対するコンポーネントの依存関係を表示できるようになりました。
- アプリケーション領域はライブラリとベースラインに含まれており、比較やインポートを行うことができます。
- コンポーネントに関連付けられていないアプリケーション領域 (BusinessComponentTemplate10 テンプレートのアプリケーション領域を除く) は、QuickTest Professional テスト・ツールを開かなくても、ALM 内から削除できます。

静的データと動的データにアクセスするテスト設定

Business Process Testing は、静的データにアクセスするテスト設定と動的データにアクセスするテスト設定をサポートしています。

- ALM のテスト設定が設定レベルで静的データにアクセスする場合、Business Process Testing の設定は各設定の反復ごとに異なるデータ値のセットにアクセスすることができます。
- 動的データにアクセスするビジネス・プロセス・テストのテスト設定を作成することができます。動的データを使用すると、Microsoft Excel などの外部データ・リソース・ファイルに基づくテスト設定を使用して、テスト・インスタンスを実行することができます。

要件カバレッジの粒度が拡大されています。これは、1つのビジネス・プロセス・テストとそこに含まれるいくつかのテスト設定 (ユース・ケース) を使用して、1つの要件をカバーできるためです。テスト設定ごとに、同じテスト・スクリプトの1つの実行に対して異なるデータをテストすることができます。

詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

条件

要件とビジネス・プロセス・テストとの間のカバレッジの作成では、テスト・レベルだけで各要件をカバーするのではなく、ビジネス・コンポーネントやフローなどのテスト条件でカバレッジを定義することができます。

この機能により要件カバレッジの粒度が拡大され、より正確な結果を ALM 要件モジュールに反映することが可能になります。カバレッジの観点から意味のあるコンポーネントとフローを選択することが可能で、これらのコンポーネントとフローのみが要件カバレッジの計算に影響を及ぼします。

条件の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

新しいマニュアル・ランナーの追加機能—HP Sprinter

「新しいマニュアル・ランナー HP Sprinter」(39ページ)に記載されている機能の他に、Business Process Testing では次の拡張機能が利用できます。

- ステップのパラメータを表示する機能
- テスト階層の他のエンティティと同じように、フローを展開したり折りたたむ機能
- ステップのサイドバーで前/次のコンポーネントに移動する機能

詳細については、『HP Sprinter ユーザーズ・ガイド』([HP Application Lifecycle Management アドイン] ページからアクセス) を参照してください。

利用可能な機能の変更

- ビジネス・コンポーネント・モジュールのグリッド・ビューが削除されました。
- パラメータ・タイプが削除され、パラメータはすべて文字列タイプになりました。

REST ベースの API セット

ALM REST リソースが利用できるようになりました。詳細については、『HP ALM REST API Reference』を参照してください。

REST ベースの API を利用すると、プラットフォームに依存しない形で、HTTP アプリケーションやブラウザから ALM データにアクセスできます。

API およびデータベースの更新

この項では、API の更新について説明します。

- ALM 11.00 はクライアント側のデプロイメントを使用するため、ALM の複数のインスタンスに接続することができます。これは、API に次のような形で影響を及ぼします。
 - クライアント・マシンで OTA タイプ・ライブラリが自動的に登録されなくなりました。ALM と OTA アプリケーションを接続する前に、[ALM ツールのアドイン] ページから HP ALM クライアント登録を実行してサーバのライブラリを登録します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』で、ワークステーションでの ALM の登録に関する説明を参照してください。
 - カスタム・テスト・タイプのインストールが変更されました。『HP ALM Custom Test Type Guide』を参照してください。
- Quality Center で公開された『HP Quality Center Entity Dependencies API Reference』の内容が、『HP ALM Open Test Architecture Reference』に統合されました。依存関係のリファレンスは、ALM の独立したヘルプとして提供されていません。
- OTA の TreeManager オブジェクトは、テスト・サブジェクト・ツリーのみに対応するようになりました。プロジェクト・リストの場合は、Customization.Lists を使用してください。
- リッチ・テキスト・フィールドが .DOC ファイルではなく、メモ・フィールドとして保存されるようになりました。
- サイト管理 API の CreateProjectCopy メソッドで SA_PROJECT_CREATION_FORCE_IF_ACTIVE オプションがサポートされなくなりました。プロジェクトをコピーするには、前もってプロジェクトを非アクティブ化する必要があります。
- 履歴テーブルはなくなりました。イベントは AUDIT_LOG および AUDIT_PROPERTIES テーブルでログ記録されます。OTA にはこれに伴う変更が加えられています。
- API およびデータベースのリファレンスの新規項目には、目次で赤いタグが付いています。タグはオブジェクトまたはテーブル・レベルです。個別のフィールド、メソッド、プロパティにはタグは付いていません。

ALM ヘルプ

HP ALM ヘルプは、次のように更新されました。

新しい外観

一部のユーザ関連機能では、情報の見つけやすさを念頭に目次の構成が見直され、機能の説明が複数のトピックに分割されました。

- 機能の背景情報、説明、概念説明には、概念トピックを使用します。
- アプリケーションを操作して目的の機能を実行するための詳しい手順には、タスクトピックを使用します。
- 特定の機能に関するリファレンス情報については、リファレンストピックを使用します。これには、ウィンドウ、ダイアログ・ボックス、ウィザードなどのユーザ・インタフェース要素に関する説明も含まれます。

新しいドキュメント

次のドキュメントが追加されました。

- HP ALM ヘルプに、Performance Center のドキュメントが追加されました。以前の『HP Performance Center Monitor Reference』は新しい『HP ALM Performance Center ガイド』に統合されました。このガイドには、ユーザドキュメントと管理ドキュメントの両方が含まれています。
- ベスト・プラクティスに関するドキュメントに、次のガイドが新しく追加されました。
 - 『HP ALM アップグレードのベストプラクティス』: ALM のアップグレードを準備して計画する方法について説明します。
 - 『HP ALM Business Models Module Best Practices Guide』: 新しいビジネス・モデル・モジュールを使用するためのベスト・プラクティスについて説明します。
 - 『HP パフォーマンス CoE ベスト・プラクティス』: パフォーマンス・センター・オブ・エクセレンス(CoE)を効果的に構築および運用するためのベスト・プラクティスについて説明します。
 - 『HP パフォーマンス監視ベスト・プラクティス』: テスト対象アプリケーションのパフォーマンスを監視するためのベスト・プラクティスについて説明します。
- API リファレンスに、オンラインの『HP ALM REST API Reference』が追加されました。REST API を使用すると、ALM データへのアクセスと操作が可能になります。

廃止されたドキュメント

次のドキュメントが廃止されました。

- 『HP Quality Center Upgrade Preparation Guide』: このガイドの内容は、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』の一部として利用できるようになりました。
- 『HP Quality Center Entity Dependencies API Reference』: このヘルプ・ファイルの内容は、『HP ALM Open Test Architecture Reference』の一部として利用できるようになりました。
- 『HP Business Process Testing チュートリアル』: Business Process Testing の製品の機能紹介ムービーを参照してください。

第6章: HP ALM Performance Centerの新機能

この新機能ガイドでは HP ALM Performance Center 11.00 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。HP ALM の使用方法の詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで[ヘルプ] > [製品の機能紹介ムービー]を選択することで、HP ALM Performance Center の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

管理およびラボ管理	51
ユーザの機能	52
スタンドアロン・アプリケーション	55
機能マッピング	56

管理およびラボ管理

管理に関する次の拡張機能が追加されました。

プロジェクト管理の強化

プロジェクトは ALM 上で作成して管理するようになりました。主な利点は次のとおりです。

- 事業内容やアプリケーションなど、さまざまな条件に基づいてプロジェクトをドメインにグループ化可能。
- 既存のエンティティへのフィールドとプロパティの追加など、プロジェクトの柔軟なカスタマイズが可能。
- プロジェクト・テンプレートにより、複数のプロジェクトに共通するプロジェクト・カスタマイズを定義および保守可能。
- インポートおよびエクスポート機能を使用して、プロジェクトを容易にアーカイブ可能。

日次仮想ユーザ(VUD)

Performance Center 11.00 では、サービス・プロバイダ向けの新しいペイ・パー・ユース(PPU)ライセンス・モデルが用意されており、単発的なテストに便利です。VUD は日次ベースでライセンスされ、任意のプロトコルで使用できます。

VUD のライセンスは、有効にした時点から 24 時間、複数のパフォーマンス・テストと任意のプロトコルで使用できます。24 時間が経過すると VUD は期限切れとなり、ライセンス数が減算されます。

VUD は柔軟なライセンス・モデルとして提供されており、追加の仮想ユーザ用に一時的なライセンスが必要な場合に使用できます。また、特定のプロトコルに対して恒久的なライセンスがない場合にも使用できます。

ホストの管理の改善

プロジェクトへのホストの割り当てと、パフォーマンス・テスト(従来の負荷テスト)におけるホストの使用に関して柔軟性が向上しました。

マージされたプールは削除されましたが、任意のホストを複数のプールに割り当てられるようになりました。この改善により、プロジェクト間でのホストの共有が容易になります。

さらに、ホストをホスト・プールにリンクする際に、そのプール自体から直接リンクできます。

また、ホスト・プロパティ機能も重要な改善点です。プロジェクトのカスタマイズを使用して、利用可能なプロパティのリスト(場所、CPUの性能、メモリ・サイズ、ソフトウェア・インストールなど)を定義し、ホストごとに選択することができます。これらのプロパティは、パフォーマンス・テストの設計やタイムスロットの予約時に、自動適合ホスト(従来の仮想ホスト)を絞り込んで適切なホストを特定するのに使用できます。

システム・ヘルスの確認機能の強化

新しいホストの確認機能とサーバの確認機能を使用すると、システム・ステータスの追跡とメンテナンスを行うことができます。こうした定期確認は自動的に実行されるため、システムの主要コンポーネントを常時監視できます。さらに、障害の発生時に特定と修復を行うために、複数の自動化されたタスクが追加されています。

完全な冗長性

ALM Performance CenterはALMをベースとしており、複数のノードをサポートします。負荷分散機能を内蔵した複数のPerformance Centerサーバを追加することもできます。

ユーザの機能

ユーザに関する次の拡張機能が追加されました。

不具合のトレーサビリティに対する要件

パフォーマンス要件を管理し、それぞれのステータスを追跡して不具合を特定できるようになりました。不具合は要件に直接リンクしたり、あるいはその要件をカバーするパフォーマンス・テストにリンクできます。

次のワークフローの使用を推奨します。

1. パフォーマンス要件を定義します。
2. パフォーマンス・テストでその要件をカバーします。
3. 適切なサービス・レベル・アグリーメントを定義します。
4. テスト実行に関連する不具合をリンクします。

注: Performance Center内で要件および不具合を使用する場合、追加ライセンスが必要になることがあります。

タイムスロットの予約

タイムスロット予約のユーザ・インターフェースが、これまでよりも便利でわかりやすいものになりました。また、次のような改善が行われました。

- カレンダー・ビューに、次の拡張機能が追加されました。
 - 複数の予約が同時に表示されます。
 - 使用中のプロジェクトまたはアクセス可能なその他のプロジェクトから、タイムスロットの予約の詳細(割り当てられたホストなど)を表示できます。

- デュアル・タイムゾーンが表示されます。
- 日次または週次ビューを選択できます。
- 今後の予約のクイック・ビューが表示されます。
- 新しいタイムスロットの予約に、次の拡張機能が追加されました。
 - タイムスロットの名前を定義できます。
 - スケジュール・アシスタントで、要求されたリソースが利用可能な日時が明確に表示されます。
 - 特定のホストと自動適合ホスト(従来の実際のホストと仮想ホスト)を同じタイムスロット内で組み合わせて予約できます。
 - ホスト・プロパティを使用し、必要なホストに関する特性を具体的に指定することで、自動適合ホストを絞り込むことができます。
 - メンテナンス・タイムスロットという新しいタイプのタイムスロットが追加されました。このタイムスロットは、ラボ管理で Performance Center 管理者によってスケジュールされ、パッチのインストールなどのメンテナンス・タスク用にホストを割り当てるのに使用されます。
- エラー処理に、次の拡張機能が追加されました。
 - 割り当てに問題が発生した場合に包括的で詳細な情報が提供されます。
 - タイムスロット障害が発生した場合に電子メール通知が生成されます。
 - パフォーマンス・テストに変更を加えると、そのパフォーマンス・テストにリンクされているタイムスロットに変更内容が自動的に反映されます。
- グリッド・ビューで、より高度なフィルタ機能とソート機能が利用できるようになりました。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

テスト対象アプリケーション(AUT)管理

この機能により、テスト対象アプリケーション(AUT)ホストのインベントリを管理できるようになりました。AUTホストはAUTホスト・プールにグループ化できます(Performance Centerのホストおよびホスト・プールと類似)。

AUTホストは、新しいトポロジとSiteScopeの統合機能の核となる要素です。そのため、AUTホストは、ラボ管理だけでなく、ALMプロジェクト自体でも追加できます。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

トポロジとSiteScopeの統合

ALM Performance Centerでは、テスト対象アプリケーションのトポロジ(デプロイメント・ビュー)が明確に示されるようになりました。トポロジは、HP SiteScopeとの新しい統合を使用してパフォーマンス・モニタを定義するためのインターフェースとして使用されます。

次の主要な改良が追加されました。

- プロジェクトのすべての関係者がテスト対象環境を視覚的に把握できます。
- モニタ・テンプレートのデプロイメントにより、モニタの設定が簡単になりました。
- SiteScope モニタのしきい値に基づき、トポロジ・ノードのステータスを強調表示することで、実行時のパフォーマンスの問題を特定できます。
- SiteScope 統合に関する機能追加と改善

- SiteScope ユーザ・インターフェースは、ALM Performance Center でホストされるため、Performance Center 側で追加のモニタ設定を行う必要がなく、ユースケース指向のアプローチで SiteScope 機能を使用できます。
- パフォーマンス・テストのコンテキスト外でモニタを実行するかどうかを制御できます。これにより、SiteScope サーバのスケールビリティが向上し、テストが実行されていないときのネットワークノイズが低減されます。
- SiteScope データは Performance Center 実行画面で異なるグラフに表示され、測定値名の識別やフィルタ処理を容易に行うことができます。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

パフォーマンス・テストのアセット管理の強化

パフォーマンス・テストのアセット(テスト、スクリプト、モニタ)の管理が改善され、次の拡張機能が追加されました。

- 階層的なフォルダ・ツリー・ビューでアセットを管理できます。
- テストの実行サイクルを管理できます。
- プロジェクト内およびプロジェクト間ですべてのテスト・アセットをコピーできます。
- バージョン管理を使用して変更を追跡できます。
- プロジェクト間で共有可能なライブラリでアセットを管理できます。
- テスト・アセット同士(パフォーマンス・テストとスクリプトなど)の依存関係に関して高度な管理機能が利用できるようになりました。

パフォーマンス・テストの設計の拡張機能

ALM Performance Center のパフォーマンス・テストの設計段階で提供されるユーザビリティと機能が改善されました。次の機能および拡張機能が追加されました。

- テスト用の Controller ホストを選択できます。
- Citrix クライアントにインストールされたホストなどにプロパティを割り当てて、実行時に適切なホストを割り当てることができます。
- 同じテストで自動適合(仮想)ホストと特定(実際)のホストの両方を割り当てることができます。
- 仮想ユーザ・グループにタグを付けてテスト設計や変更を容易にすることができます。
- 複数のスクリプトを1つのテストに同時に割り当てることができます。
- 実行環境設定: ALM Performance Center で追加属性を管理できます。
- J2EE/.NET 診断の統合(HP Diagnostics 9.0のみ):ヘルス・ステータス・フィールドを使用してプロンプトをフィルタ処理できます。
- テストのサマリ表示が強化されました。
- サービス・レベル契約(SLA):
 - SLA「トランザクションのパーセンタイル値」を測定することができます。
 - 10進数値のしきい値を設定できます。

- SLA で測定可能なトランザクション数に制限はありません。
- SLA ステータスを表示するレポートを表示できます。

実行の開始

実行の開始プロセスに、次の拡張機能が追加されました。

- プロセスでカバーされるテストの初期化手順が追加されました(ホストの割り当てなど)。
- パフォーマンス・テストの起動が以前よりも高速になりました。
- 致命的なエラーが発生した場合に初期化段階でパフォーマンス・テストを取り消すことができます。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

My Performance Center

My Performance Center は、テスト実行専用のインタフェースを提供する追加ビューです。パフォーマンス・テスト機能のパーソナライズ・ビューを作成して、毎日のパフォーマンス・テスト・アクティビティを実行しやすくすることができます。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

スタンドアロン・アプリケーション

スタンドアロン・アプリケーションに関する次の拡張機能が追加されました。

VuGen とプロトコル

新しいプロトコルと機能が追加され、既存の機能には拡張機能が追加されました。

- **Ajax TruClient**: 最新の JavaScript ベースのアプリケーション(Ajax など)に対応した新しい高度なプロトコルです。このプロトコルは Web ブラウザでのユーザ・アクティビティをエミュレートします。スクリプトは、Mozilla Firefox で対話形式で開発します。
- **Silverlight**: Silverlight ベースのアプリケーション用の新しいプロトコルで、トランスポート・レベルでユーザ・アクティビティをエミュレートします。このプロトコルでは、アプリケーションで使用する WSDL ファイルのインポートと設定を自動的に行ってハイレベルなスクリプトを生成できます。
- **Java over HTTP**: Java ベースのアプリケーションとアプレットを記録するために設計された新しいプロトコルです。このプロトコルは、Web 関数を使用した Java 言語スクリプトを生成します。HTTP 経由で Java リモート呼び出しを記録および再生できる点が他の Java プロトコルと異なります。
- **データ形式拡張機能 (DFE)**: Web(HTTP/HTML) プロトコル・ファミリ用にデータ形式機能を拡張する新しい機能です。この機能を使用すると、未加工の HTTP トラフィックを管理可能な構造化 XML 形式に変換でき、XPath による相関処理が可能になります。
- **Correlation Studio**: この Web(HTTP/HTML) 自動相関機能は、コード生成時に作成されたスナップショット・データ(DFE でフォーマットされたデータなど)で相関を検索する際に、検索範囲を広げるように機能が拡張されました。
- **スナップショット・ビュー**: Web(HTTP/HTML) プロトコル・ステップ用の新しいスナップショット・ビューでは、完全な HTTP トラフィックを未加工の形式と DFE 生成形式の両方で表示することができます。

詳細については、『HP Virtual User Generator User Guide』を参照してください。

Analysis

HP Analysis に、次の拡張機能が追加されました。

領域	拡張機能
レポート機能	<ul style="list-style-type: none"> 完全にカスタマイズ可能なレポート・テンプレートにより、レポートの内容と形式を制御できます。 あらゆるレポートの用途に対応して、Word, Excel, PDF, HTML などのさまざまな形式にレポートをエクスポートします。 Analysis セッション・テンプレートにより、それぞれ異なる時間範囲の複数のレポート・テンプレートを関連付けることができます。 スタンドアロン Analysis による Analysis データの作成時にレポートを自動生成します。
サービス・レベル契約 (SLA)	<ul style="list-style-type: none"> SLA タイプとして「トランザクションのパーセンタイル値」が追加されました。 10 進数のしきい値を設定します。
ユーザビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ワイルドカードおよび like ステートメントを使用して、グラフの凡例、グラフ・データ、未加工データを任意のカラムでフィルタ処理します。 グラフを開く前にフィルタ処理します。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>注: これにより、大規模なセッションを扱う際に Analysis プロセスによる使用リソースを軽減できる可能性があります。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> HTML レポートで、グラフの凡例の測定値の名前をすべて表示できるようになりました。 Analysis セッション・テンプレートの管理用にユーザ・インタフェースが強化されました。

詳細については、『HP LoadRunner Analysis User Guide』を参照してください。

機能マッピング

本項には、HP ALM Performance Center 11.00 で HP Performance Center 9.5x の機能を見つけるためのマッピング情報が記載されています。

Performance Center 9.5x 管理サイトの機能マッピング

次の表に、Performance Center 9.5x 管理サイトの機能が、ALM Performance Center 11.00 ラボ管理のどの場所にあるかを示します。ラボ管理にログインする方法については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。

機能	Performance Center 9.5x モジュール	HP ALM Performance Center 11.00 ラボ管理
ホスト	リソース	ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。

機能	Performance Center 9.5x モジュール	HP ALM Performance Center 11.00 ラボ管理
MI Listener	リソース	ラボ管理 サイドバーの[ラボ リソース]で, [MI Listener]を選択します。
ホストの場所	リソース	ラボ管理 サイドバーの[ラボ リソース]で, [場所]を選択します。
ホスト・プール	リソース	ラボ管理 サイドバーの[ラボ リソース]で, [ホスト プール]を選択します。
サーバ	リソース	ラボ管理 サイドバーの[ラボ リソース]で, [PC サーバ]を選択します。
テスト実行	サイト管理	ラボ管理 サイドバーの[ラボ リソース]で, [テスト実行]を選択します。
タイムスロット	サイト管理	ラボ管理 サイドバーの[ラボ リソース]で, [タイムスロット]を選択します。
自動起動ビューア	サイト管理	<ul style="list-style-type: none"> 過去の自動起動パフォーマンス・テスト: ラボ管理 サイドバーの[ラボ使用状況]で, [テスト実行]を選択します。 今後の自動起動パフォーマンス・テスト: ラボ管理 サイドバーの[ラボ使用状況]で, [タイムスロット]を選択します。今後のテストは開始日で識別できます。
イベント・ログ	サイト管理	<ul style="list-style-type: none"> ラボ管理 サイドバーの[ラボ リソース]で, [ホスト]を選択します。 ラボ管理 サイドバーの[ラボ使用状況]で, [テスト実行]を選択します。 ラボ管理 サイドバーの[ラボ設定]で, [PC サーバ]を選択します。 ラボ管理の共通ツールバーで, [ツール]>[イベント ログ]を選択します。
ライセンス	システム構成	ラボ管理 サイドバーの[ラボ設定]で, [ライセンス]を選択します。
一般設定	システム構成	ラボ管理の共通ツールバーで, [ツール]>[Performance Centerの一般設定]を選択します。
診断	システム構成	ラボ管理 サイドバーの[ラボ設定]で, [診断]を選択します。
サーバ設定	システム構成	ラボ管理 サイドバーの[ラボ設定]で, [診断]を選択します。
サーバ認証	システム構成	サーバ認証は, ALM ユーザ管理機能を使用して実行されるようになりました。


機能	Performance Center 9.5x モジュール	HP ALM Performance Center 11.00 ラボ管理
警告の設定	システム構成	監視は、製品内部のホスト定期確認機能によって実行されるようになり、SiteScopeは使用されなくなりました。
レポート	レポート	ラボ管理サイドバーの[ラボ使用状況]で、[使用状況レポート]を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 次の2つの新しいレポートが利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> VUD ライセンスのプロジェクト使用状況レポート VUD ライセンスのサイト使用状況レポート サイト ユーザ数レポートは利用できなくなりました。
個人の詳細	ユーザ管理	ALM プロジェクトで、[ツール] > [カスタマイズ] > [ユーザのプロパティ]を選択します。
ユーザ	ユーザ管理	ALM プロジェクトで、[ツール] > [カスタマイズ] > [プロジェクト ユーザ]を選択します。
役割および権限の管理	ユーザ管理	ALM プロジェクトで、[ツール] > [カスタマイズ] > [グループとアクセス許可]を選択します。
プロジェクト	ユーザ管理	プロジェクトの追加: サイト管理でプロジェクトを作成します。サイト管理へのアクセスの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 プロジェクト情報: プロジェクト設定を定義するには、ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]で、[プロジェクト設定]を選択します。

Performance Center 9.5x ユーザ・サイトの機能マッピング

次の表に、Performance Center 9.5x ユーザ・サイトの機能が、ALM Performance Center 11.00 のどの場所にあるかを示します。ALM を起動する方法については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

機能	Performance Center 9.5x モジュール	HP ALM Performance Center 11.00
ステータス> 一般	プロジェクト	パフォーマンス・パースペクティブでのみ利用可能。パフォーマンス・パースペクティブの詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

機能	Performance Center 9.5x モジュール	HP ALM Performance Center 11.00
ステータス>ダッシュボード	プロジェクト	ALM サイドバーの[要件]の下にある[要件]を選択します。次に, [表示]> [カバレッジ アナリシス]を選択します。 注: これは, Performance Center ダッシュボードと完全に同じではありません。ALM Performance Center 11.00 では次の点に注意する必要があります。 <ul style="list-style-type: none">トランザクション・レベルのステータスが表示されるのは SLA レポート内だけです。ステータス情報をすべて取得するには, 要件を定義する必要があります。
ホスト	プロジェクト	ALM サイドバーの[ラボ リソース]で, [ホスト]を選択します。
タイムスロット	プロジェクト	ALM サイドバーの[ラボ リソース]で, [タイムスロット]を選択します。
トポロジ		ALM サイドバーの[ラボ リソース]で, [トポロジ]を選択します。 注: トポロジは新しい機能です。
Vuser スクリプト	プロジェクト	ALM サイドバーの[テスト]で, [テスト計画]を選択します。 注: プロジェクト内のすべてのスクリプトに関する基本情報の詳細がまとめて表示される場所はありません。個別のスクリプトの情報を表示するには, [スクリプト フォルダ]> [<目的のスクリプト>]を選択します。この情報は右上の表示枠に表示されます。
モニタ・プロファイル	プロジェクト	ALM サイドバーの[テスト]で, [テスト リソース]を選択します。
自動起動ビューア	プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">過去の自動起動パフォーマンス・テスト: ALM サイドバーの, [テスト]の下の[テスト リソース]を選択します。今後の自動起動パフォーマンス・テスト: ALM サイドバーの[ラボ リソース]で, [タイムスロット]を選択します。今後のテストは開始日で識別できます。
オプション	プロジェクト	ALM サイドバーの[ツール]で, [PC プロジェクト設定]を選択します。
プロジェクトを変更	プロジェクト	ALM サイドバーの[ツール]で, [プロジェクトを変更]を選択します。

機能	Performance Center 9.5x モジュール	HP ALM Performance Center 11.00
管理	負荷テスト	ALM サイドバーの[テスト]で, [テスト計画]を選択します。
テスト実行	負荷テスト	ALM サイドバーの[テスト]で, [テスト実行]タブを選択します。
トレンド・レポート	負荷テスト	ALM サイドバーの[テスト]で, [テストラボ]を選択します。次に [テスト実行]タブを選択し, [パフォーマンスのトレンド]ボタン  をクリックします。
個人の詳細	ユーザ管理	共通ツールバーで, [ツール] > [カスタマイズ] > [ユーザのプロパティ]を選択します。
ユーザ	ユーザ管理	共通ツールバーで, [ツール] > [カスタマイズ] > [プロジェクトユーザ]を選択します。
役割	ユーザ管理	共通ツールバーで, [ツール] > [カスタマイズ] > [グループとアクセス許可]を選択します。
プロジェクト		ALM Performance Center 11.00 では利用できません。
権限管理	ユーザ管理	共通ツールバーで, [ツール] > [カスタマイズ] > [プロジェクトユーザ]を選択します。
ダウンロード	その他	共通ツールバーで, [ツール] > [スタンドアロンのアプリケーションのダウンロード]を選択します。
新機能	その他	共通ツールバーで, [ヘルプ] > [新機能]を選択します。

